

かわら版 市民 プレス

SHIMIN PRESS

「市民フォーラム」
原 昭二
デジタル工房
hara@camelianet.com
090 (3048) 5502
〒353-0004 埼玉県志木市本町 2-4-43

市民の目線で市民が発信する地域情報紙
WEB SHIMIN
<http://shimin.camelianet.com>

「市民プレス」電子版(無料)を公開しました
<http://pr-shimin.camelianet.com>
電子書籍専用のアプリケーション等でお読み下さい。

ヤコブ・ルートヴィヒ・フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(Jakob Ludwig Felix Mendelssohn Bartholdy)(1809年2月3日~1847年11月4日)は、ドイツロマン派の作曲家、指揮者。オラトリオ『聖パウロ』は、彼の天才的才能と類い稀なる情熱によって誕生した名曲である。

戯曲を題材とした『夏の夜の夢』序曲を作曲、1829年、20才、作曲家バッハの死後初めて、自ら監督して、『マタイ受難曲』の公演演奏を行なう。会場はベルリン・ジングアカデミーのホール。ピアノで通奏低音を担当しながら指揮して聴衆を魅了した。

メンデルスゾーンは、バッハ音楽の復興、ライブツイヒ音楽院の設立など、19世紀の音楽界に極めて大きな影響を与えた。

メンデルスゾーンは、その後何度かゲーテに招かれて会っており、ゲーテの詩の多くに曲をつけている。ゲーテに靈感を受けて作曲された作品には、他に序曲『静かな海と楽しい航海 Op.27』とカンタータ『最初のワルプルギスの夜 Op.60』がある。

メンデルスゾーンの家は、1837年3月、フランスのプロテスタントで聖職者の娘、セシル・シャルロット・ゾフィー・ジャンルノー Cécile Charlotte Sophie Jeanrenaud(1817年10月~1853年3月)と結婚し、5人の子に恵まれた。

しかし天才は早世した... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。1843年、自ら奔走して設立資金を集め、ライプツィヒ音楽院を開校、院長となる。

メンデルスゾーン オラトリオ『聖パウロ』 作品・36

この少年の才... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。

しかし天才は早世した... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。

しかし天才は早世した... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。

しかし天才は早世した... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。

メンデルスゾーンの生い立ち
フェリックス・メンデルスゾーンは、ドイツ北西部の工業都市・ハンブルクで、富裕な銀行家の息子として生まれた。「メンデルスゾーン」とはメンデル家の息子という意味で、祖父は、カントにも影響を残した有名なユダヤ人哲学者であった。フェリックスは4人兄弟の2番目で、姉のフアニー(結婚後、フアニー・ヘンゼル)も有名なピアニストであり、また女性作曲家の先駆者でもあった。

天才だったメンデルスゾーン
幼少期から優れた音楽の才能に恵まれ、神童として知られた。6歳の時に母からピアノの手ほどきを受け、8歳になると、父親がパリに赴任した際に同行して、マリー・ビゴリーのレッスンを受ける。この年からベルリンでカール・フリードリヒ・ツェルターに作曲を学ぶ。17才で、シェイクスピアの

重奏曲、弦楽四重奏・五重奏曲、声楽曲・宗教音楽としてオラトリオ、カンノン、独唱曲、オペラなど、その数は九百余りにもなる。

ユダヤ人の家系であったメンデルスゾーン家は言わねなき迫害を受けることが多かった。彼がキリスト教に改宗後も変わらなかつた。しかしそのような状況に挫けることなく、終生ドイツ音楽界の重鎮として君臨し続けた。

メンデルスゾーンは、その後何度かゲーテに招かれて会っており、ゲーテの詩の多くに曲をつけている。ゲーテに靈感を受けて作曲された作品には、他に序曲『静かな海と楽しい航海 Op.27』とカンタータ『最初のワルプルギスの夜 Op.60』がある。

メンデルスゾーンの家は、1837年3月、フランスのプロテスタントで聖職者の娘、セシル・シャルロット・ゾフィー・ジャンルノー Cécile Charlotte Sophie Jeanrenaud(1817年10月~1853年3月)と結婚し、5人の子に恵まれた。

しかし天才は早世した... 1835年、彼は26才でライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者となり、1841年、32才でベルリンの宮廷礼拝堂楽長に就任した。



フェリックス・メンデルスゾーン

Felix Mendelssohn
「あなたは何歳ですか?」とツェルターが問う。ゲーテは「そうだ」と答えて続けた。「しかし君の生徒が既にやっているこ

何か伝統的な要因があったの... ではないかとする説もある。

オラトリオ『聖パウロ』の主なキリスト教発展の基礎をつくつた人、新約聖書の著者の一人として知られる聖パウロである。

オラトリオ『聖パウロ』作品・36
管弦楽・東京ニューシティ管弦楽団
合唱・志木第九の会合唱団

志木第九の会
第十六回 定期演奏会
2014年7月20日(日) 開演・2時
志木市民会館 パルシテイホール



創立20周年記念、平成24年(2012)6月3日(日)、和光市民文化センター『サンアゼリア』大ホールで
大曲 ヴェルディの「レクイエム」の演奏に挑む
音楽監督・指揮：三澤 洋史 管弦楽：東京ニューシティ管弦楽団 合唱：志木第九の会 坂戸第九を歌う会(賛助出演)

オラトリオ「聖パウロ」は生まれた

作曲の動機は・・・

1829年、メンデルスゾーンは、死後、長く忘れられていたヨハン・ゼバスティアン・バッハの「マタイ受難曲」を、ベルリンで復活上演して成功を納め、キリスト教徒の最も偉大な音楽を世界に蘇らせたと言われた。自らも音楽家として名声を得て、宗教音楽を作曲する道が開かれた。

1835年、メンデルスゾーンは、バッハが活躍したライプツィヒのゲヴァントハウスオーケストラの指揮者に就任し、バッハがカンタータ、受難曲などの教会音楽を作曲した地に在って、彼の音楽を深く研究する機会に恵まれた。

オラトリオ《聖パウロ》はメンデルスゾーンの類稀なる能力に加えて、彼の宗教的な激しい情念が湧き出して創造され、1836年5月、デュッセルドルフのニードラーライン音楽祭で初演された。バッハのマタイ受難曲の冒頭の暗い旋律とは異なり、メン

パウロの歩いた伝道の道程



デルスゾーンのオラトリオ「聖パウロ」の序曲は、明るく、またまばゆい輝きをもって始まる。

好評だった初演の後、上演は瞬く間に世界に広がっていった。その年の10月には英訳テキストによってリパブルで、明けて1837年5月には海を越えてボストンで、夏にはロンドン、初秋にはバーミンガムで。ほかにもデンマーク、オランダ、ポーランド、ロシア、スウェーデン、スイスなどの各国で演奏された。

19世紀、オラトリオというジャンルは衰退にあつたが、《聖パウロ》と、続いてメンデルスゾーンが作曲したオラトリオ《エリヤ》によって見事に息を吹き返した。

メンデルスゾーンの二つのオラトリオは、豊かな、そして美しく鳴り響く名曲なのである。



ピエトロ・ダ・コルトーナ（パロック時代盛期のイタリアの画家、建築家）が1631年に描いたパウロの回心

オラトリオとは・・・

「オラトリオ」の語源は、教会や修道院に設けられた「祈祷用の部屋」で、聖職者と信徒が祈祷室に集まって、祈祷、説教、聖書の朗読、宗教曲の歌唱などの習慣がつくられた。自由な形式が許され、世俗曲の形式も採り入れられて、音楽の形式として、オラトリオの形式が生まれたといわれている。

典型的なオラトリオは、宗教的（キリスト教的）なテーマで作曲され、聖書などから取った台詞が使われた。さらに、様々な曲を合わせた豊かな描出力をもつようになり、歌詞には叙事的なストーリーが含まれ、声楽（独唱・合唱）は、オー

ケストラとともに演奏され、規模の大きなジャンルとなった。レシタチーボは・・・ イタリア語で recitativo は、叙唱、朗唱と訳され、オペラ、オラトリオ、カンタータなどの大規模な組曲形式の作品の中に組み込まれる。アリアなどの旋律的な曲の間や前に置かれ、個人的な感情の独白、状況説明、ストーリーの紹介など

コロラールは・・・ 独逸語で Choral は、ルター派教会で歌われる賛美歌だが、現代な役割を果たした。彼はまた自ら賛美歌をつくった。

形式や、類似した性格をもつ作品をも含めて呼ぶことが多い。コロラールの旋律は、多くの場合単純で、歌うのが容易である。これはもともと、専門の合唱団ではなく、教会に集まった会衆の人々が歌うものとして考えられていたからで、韻を踏んだ詞をもち、有節形式（同じ旋律に歌詞の違う節をあてて繰り返す形式）で書かれている。宗教改革の中心人物となつて、プロテスタント教会の源流をつつた、マルティン・ルターの手

ユダヤ人だったパウロが改心した経験は、「パウロの回心」といわれ、紀元34年頃のことされる。 台本製作は後に「エリヤ」の台本にも関わつたデッサウの牧師ユリウス・シュープリンクのアドバイスを得ながらメンデルスゾーン自身が行つた。聖書に忠実な語句こそ最良の言葉と考へて、歌詞のテキストはほとんど「使徒言行録」から取られている。ただし、第20曲のみ聖書の語句ではなくメンデルスゾーン自身の作詞ではないかと考えられている。

（曲）と（場面）

- 1 曲 3 曲 呼びかけと詠唱
- 4 曲 11 曲 ステファノの殉教
- 12 曲 22 曲 サウロの回心と洗礼

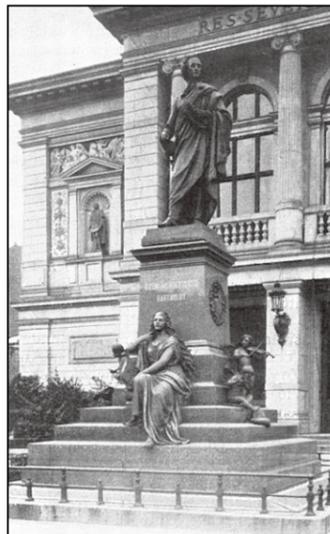
（第一部）

- 23 曲 27 曲 伝道 1
- パウロとバルナバの派遣
- 28 曲 31 曲 伝道 2
- パウロへの迫害
- 32 曲 36 曲 伝道 3
- リュストラにおける足なえの治療
- 37 曲 40 曲 伝道 4
- ユダヤ教徒と異教徒によるパウロの迫害
- 41 曲 43 曲
- パウロのエフェソの教会との別れ
- 44 曲 45 曲
- パウロの殉教の死と信仰の証

（第二部）

- サウロから改名したパウロがバルナバと共に、東地中海沿岸各地でさまざまな奇跡を起こしながらキリストの教えを伝え歩く。さらに、周囲の反対を押し切つて、予期される投獄や死を恐れず、イエエルサレムに戻つてキリストの福音を伝える決意をするところまでを描いている。

1936年に撤去された・・・ゲヴァントハウス（ライプツィヒ）の前に在ったメンデルスゾーン像



ライプツィヒのメンデルスゾーンの書斎



ERSTER TEIL
1. [Chor]
Herr! Der du bist der Gott,
der Himmel und Erde und das Meer gemacht hat.
Die Heiden lehnen sich auf, Herr,
wider dich und deinen Christ,
Und nun, Herr, siehe an ihr Drohn
und gib deinen Knechten, mit aller Freudigkeit
zu reden dein Wort.

ZWEITER TEIL
42. [Chor]
Sehet, welche Liebe hat uns der Vater erzeiget,
daß wir sollen Gottes Kinder heißen.
44. [Schluschor]
Nicht aber ihm allein, sondern allen,
die seine Erscheinung lieben.
Der Herr denket an uns und segnet uns.
Lobe den Herrn!
Lobe den Herrn, meine Seele,
und was in mir ist, seinen heiligen Namen.
obet den Herrn, Ihr seine Engel, lobet den Herrn!

第一部
序曲につづく合唱
主よ！ 貴方は神・・・
天と地と、そして海をも創られた方、それなのに、異邦人たちは、貴方に背いて刃向かつてきます。
主よ！ 彼らの脅しに眼を向け、貴方の僕となつた人々が安心して、そして喜びをもって、貴方の教えを語れるようになさつて下さい。

第二部の終曲
42. 「合唱」
見つめよう、どれ程までの愛かを父がわたくし達に示してくれたのかを・・・
わたくし達は神の子とさえ呼ばれるのです。
44. 「最終合唱」
しかし彼だけでなく、誰にも授けてくれるのです、主が来られることをひたすら待ち望む人には、主はわたし達を想い、祝福されるのです。
主を賛美しよう！
主を賛美しよう、わたくしの魂よ、わたしの内にあるもの、その聖なる御名を、主を賛美しよう、主の御使い達よ、主を賛美しよう！